

二月十一日天王寺公會堂土佐堀青年會館九條市民殿の三ヶ所に於て阪本氏等報告演説を行ひ、續いて灰色議員に督勵電報を雨下したのであつた、斯くて前後數回に亘る普選要求演説を試みた鐵工組合員は

宮川繁二郎 井崎惣太郎 川口千秋 塚本重藏 幸岩次郎 佐藤一雄
平井榮藏 泉 孝 竹内千代造 中村慶造 瀬野久司 内田文市
小寺光一

氏等にして金子忠吉氏は専ら普選聯盟の執行委員として終始された。一方我が日本職工總同盟に加盟せる中國労働組合は山口縣徳山其他に於て、又廣島労働組合金澤鐵工組合等盛んなる普選運動が行れ、遂に政府が議會解散を命ずると共に總選舉に移るや、關西聯盟は再び四月十八日中央公會堂に於て普選要求労働大會を催し、普選論者たる代議士を應援し、普選完成の日まで聯盟を存続する事を決議した。

第八章 關西労働團體

大正八年は我が國労働運動史にとつて、エボックメーキングな年であつ

た、勿論世界的にも文化的に一新紀元を劃した年ではあるが、労働者が眞に自ら目醒め且つ解放せられたのは此年からであつた。それは國際労働會議と言ふ黒船來航が預つて力ある事は言ふ迄もあ、然し乍ら労働者の内的生活が労働運動を起さしむるを得ない幾多の事實が、遂に鬱然として天を掩ひ大粒の雨は忽ち雷鳴を呼び沛然として地上を掩ふたのである。

大正八年四月期成會系及労働協會系の人々と共に大阪鐵工組合を成立せしむる迄の關西労働運動界は寧ろ余り静寂であつた然し乍ら一度火を点せられるや燎原を燒くが如き勢を以て労働組合運動が行れた。即ち五月二十七日沖島哲二郎氏等に依りて日本労働協會を組織せられ、續いて鑛金工組合義徳會朝日橋人夫労働組合鐵工工手組合和歌山労働共益會帝國労働者組合鐵心會煉瓦工組合電鐵従業員同盟會向上會織友會電工組合屋外労働誠友會印友會友禪職工組合硝子工組合新進會印刷工組合勞聖會惟徳會等組織せられ、越へて大正九年純洋服職工組合印刷革新同志會人力車夫聯盟洋服裁縫同志會電業員組合等組織せられ。その刊行物としては労働者新聞電業員